

(様式6)

吉田 久美子氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Development and Validation of the Self-care Agency Scale
for Cancer Patients under Treatment
 (治療期にあるがん患者のセルフケア能力の尺度の開発)
 The KITAKANTO MEDICAL JOURNAL 67(1) 2017 in press
 Kumiko Yoshida, Kiyoko Kanda

論文の要旨及び判定理由

本研究は、セルフケア能力を活用し支援する重要性が高い、治療期にあるがん患者のセルフケア能力測定尺度を開発するものである。がん患者のセルフケアの概念分析、治療期にあるがん患者に必要なセルフケア能力に関する質的分析を経て、暫定版を作成した。質問項目の妥当性は、がん看護専門看護師5名と尺度開発の経験を持つ5名の研究者で因子と項目の合致性を検討し確保した。最終的に4因子80項目、5件法の質問票を作成した。これを関東信越地区4カ所の医療機関で、治療期にあるがん患者356名に回答を依頼し303名の有効回答を分析した。項目分析では、天上効果あるいはフロア効果などにより52項目を削除し、28項目が残った。

構成概念妥当性は、探索的因子分析および確証的因子分析を行い、3因子15項目からなる「治療期にあるがん患者セルフケア能力尺度 (SAC)」が構築された。最終的なモデルの適合度は、GFI=0.911、AGFI=0.878、CFI=0.945、RMSEA=0.071であり、受容できる水準を満たした。

信頼性は、SAC全体のCronbach's α は0.900、各因子およびSAC全体と各因子の信頼性も確保された。折半法によるSpearman-Brownの公式により算出した信頼性係数は、0.964であり、尺度の信頼性が確認された。

基準関連妥当性は、SACとSCAQ (慢性病者のセルフケア能力を査定する質問票) およびFACT-G (がん患者のQOL尺度) との相関関係は、項目全体および因子間で有意であった。

以上から、治療期にあるがん患者のセルフケア能力尺度 (SAC) は、信頼性・妥当性のある尺度であることが確認された。本尺度は、15項目であり、簡便に測定できることから、治療期にあるがん患者のセルフケア能力をアセスメントし、適切な看護支援に活用できること、またがん患者のセルフケア能力に関する研究にも貢献できると認められ、博士(保健学)の学位に値するものと判定した。(平成29年2月16日)

審査委員

主査	群馬大学大学院教授 看護学講座	二渡 玉江	印
副査	群馬大学大学院教授 看護学講座	岡 美智代	印
副査	群馬大学大学院教授 生体情報検査科学講座	林 邦彦	印

参考論文

1. がん患者のセルフケアの概念分析
日本看護科学会誌30巻2号, 23-31, 2010
吉田久美子, 神田清子
2. 治療期にあるがん患者のセルフケア能力
日本がん看護学会誌26巻1号, 4-11, 2012
吉田久美子, 神田清子
3. Relationship between Self-care Agency and Quality of Life Among Cancer Patients Undergoing Outpatient Chemotherapy
(外来で化学療法を受けるがん患者のセルフケア能力とQOLとの関連)
THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL Vol.66:271-277,2016
Yoshida K, Kanda K